

兵庫県医師会医療支援チーム（第8陣）「宮城県災害支援現地報告」

理事 菊池 英彰

4月6日に現地に入った時点では、災害時急性期は過ぎており、亜急性期の終わり、慢性期に入りつつある時期であった。

6日前班から引き継ぎ時には避難者は比較的平穏で受診者は忍耐強く、医師の指示に良く従うとの指摘があった。

エコノミークラス症候群を疑う男性を石巻日赤病院へ紹介（7日に再来所、入院断われたとのこと、両下肢エデーマ著しく、陰のう腫大、腹水貯留を疑う、利尿剤投与で経過をみることにする。）、左下顎部～頸部の腫脹・疼痛、発熱の40代女性、メロペン点滴朝夕の2例を引き継ぐ。

午後3時からの拠点診療では、風邪症状（咳、咽頭痛、発熱）、消化器症状（下痢、吐き気）の患者、インフルエンザはなし。他に血圧、冠拡張剤、ワーファリン、血糖下降剤、など手持ちの薬が無くなり来所する者多し。この際、お薬手帳を持参するので助かる。

午後8時、日赤meetingに参加。明日より幹事のみ出席でよいとのこと。不足する薬剤を受領する。

4月7日、午前8時日赤、インフルエンザ、感染性胃腸炎など大きな流行は無い、院外処方ダブリが多く注意してほしい。石巻市民病院の仮設診療所が市役所前教育委員会の建物内に設置された。ただし、再診のみ、新患は不可（コンピューターに1カ月前までのデータが残っている）。

市内の医療機関が回復しつつある。市役所のホームページで確認可能、避難所に提示する。

拠点での朝話し合い、エリア4で訪問していない避難所を重点に巡回する。門脇中学校で下水管が詰まり、トイレ使用不能、穴を掘り板を渡して用を足している状態、担当ナースからの提案で、拠点で即席のスプレー式消毒液器具を作成しトイレ周辺の消毒を行うこととする。

8日から眼科のドクターが来ることを体育館に提示する。

午後の拠点診療は患者数が少なく、肩、腰、ひざなどの痛みを訴える人が目立つ。

巡回では、薬の要望多い。午後から兵庫県吉本副知事、杉本副防災監など県行政メンバーの訪問あり。県のご高配に謝意を表す。

ホテルに帰り、震度6の激しい揺れに遭遇。しかし、全員無事。東松島宿泊の谷澤副会長、津波警報のため暗闇の中避難される。

石巻中学、再び停電、断水。翌日回復。

4月8日 高速不通、地道を走る。信号故障、大渋滞。

拠点到着遅れるも、当日の業務開始。午後1時終了。次班の到着を待つも午後2時過ぎても到着せず。山形空港への帰路も渋滞が予測されるため、お弁当はあきらめ、引き継ぎなど事後は谷澤副会長にお願いし、名残惜しいが石巻中学校を後にした。